

新明和が大型ポンプ検査施設

新明和工業は10日、雨水を河川に排出する大型水中ポンプの運転検査用水槽施設を小野工場（兵庫県小野市）に開設する。ポンプの能力を出荷前に検査する施設で、投資額は8億5000万円。水中ポンプのサイズでは限界とされる口径1200ミリ以上で検査能力を高めた。局地的な集中豪雨や台風による水害の多発から、短時間で大量排水できるポンプへの社会ニーズが強まっている。大型ポンプの開発を拡充し、先行メーカーを追撃する。（大阪・田井茂）

「大型水中ポンプは、型ポンプの開発力が高出遅れていたが、これまで。同工場は同1000ミリ以上で検査できなかった。10日に小野工場で運転検査の従来施設もある。顧客の自治体からは年間約1000人が運転検査の立ち会いに訪れる。体事業部長は、こう意気込む。口径1200ミリのポンプまで検査でき、大

雨水排出ポンプは河川堤防の脇などに設置する雨水排水機場の主要設備。主流の横軸型大型水中ポンプでは、水位に関わらず運転を続けられる機種で石垣（東京都千代田区）が納入数トップに立つ。ミヅタ（佐賀市）も有力メーカーで、新明和は自社推定でシェア3位。先行されているが2022年に運転検査用水槽施設の増設を決め、巻き返しに出た。国内ポンプ市場は成熟しているものの、異常

水害対策の社会需要対応



口径1200ミリのポンプまで水の量や圧力を測定できる水槽（小野工場）

口径1200mmで巻き返し

気象による水害への対応策で大型の雨水排出ポンプ需要は伸びている。水槽は口径の異なるモーター一体型ポンプを多数配置し、水槽との間で水を循環させ、ポンプごとに吐き出す水の量や圧力を配管で計測できる。

従来施設の運転検査用水槽施設だけでは、そもそも能力が足りなかった。生産が集中する毎年12月―翌年2月は「施設を社内で行う」（田村常務執行役員）ほどだった。今後は口径1200ミリまでの施設と併用し、検査能力が競合他社並みに高まる。同口径の大型水中ポンプは、1分間に250立方メートル排水できる。口径1000ミリと比べ、50％弱排水能力が強まる。1時間に50ミリ以上の集中豪雨も増えており、能力の大きな口径1200ミリの大型機種が主戦場となる。

新明和は全国に張り巡らす営業・サービス網も強み。田村常務執行役員は「ネットワークがあるから全国をカバーできる」と説明する。設計・施工から手がける技術力や信頼性のほか、人手不足を補う保守サービスなども高め、シェア奪取を狙う。